

令和4年度 「学校評価自己評価表」

神石高原町立三和小学校

- 1 学校教育目標 自ら学び 自ら考え 協働できる 心豊かな子供の育成
 2 経営理念 ミッション：「地域に愛され、信頼される」学校 ビジョン：「子供の成長の姿で教育の成果を見せる」学校
 3 経 営 目 標

	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための手だて	評価項目・評価指標	評価		評価	経営目標の達成状況と改善策	担当者				
					9月	2月							
確かな学力	○意欲を持ち主体性を発揮する子供の育成	1 基礎的・基本的な学力の定着を図る。	○既習を活かして、見通しをもたせる授業づくりに取り組む。	○国語、算数、理科の単元末、学期末テストの思考・判断・表現の到達度を低学年では90%以上、中学年では80%以上、高学年では75%以上の児童を80%以上にすることを目指す。 ○標準学力調査（1月）において、校内平均が全国平均を上回る。	B	B	B	・単元末、学期末テスト（思考・判断・表現）の平均点は、以下の通りだった。 1年生…国語90.6点 算数88.1点 2年生…国語96.2点 算数90.6点 3年生…国語87.7点 算数81.4点 理科83.9点 4年生…国語85.7点 算数83.6点 理科94.1点 5年生…国語90.5点 算数84.9点 理科87.8点 6年生…国語86.7点 算数80.0点 理科88.5点 ・到達度を見取ると低学年では90%以上が国語科では85%、算数科では68%、中学年では80%以上が国語科では89%、算数科では75%、理科では85%、高学年では75%以上が国語科では97%、算数科では74%、理科では92%であった。8観点のうち5観点で達成した。算数に課題があるが、低・中学年では1学期と比べ、大きく向上している。 ・標準学力調査で校内平均が全国平均を上回っていたのは、国語・算数とも6学年中5学年だった。分析を行い課題を把握し学習の積み残しがないように取り組んでいく。 ・考えの共通点、相違点を見つけさせることや対話の場面を取り入れること、問い返しや切り返し発問を行うこと等に全教員で取り組んだ。「学びを深める授業づくりをする」という目標に向け、組織的に行うことができた。これにより、児童はどう考えたらいいかが分かるようになったり、理解が深まったりした。教員自身も根拠を問うことが意識してできるようになったという変容が見られた。	古本高木				
		2 生活科・総合的な学習の時間を通して、探究する力の向上を図る。	○児童の願いや思いを活かした課題を設定し、児童が主体的に学びたいような単元構成をする。	○以下のアンケート項目において、4段階尺度評定法で、評価の全校平均を3以上にする。 ・「知りたい」「今何をすべきか」と考えて、課題を発見することができた。 ・課題を解決するために、友達と協力したり、使えることを選択したりして、見通しをもって解決した。 ・自分や友達、郷土の良さに気付くことができた。 ・学んだ事を次の学習へ活かすことができた。	A	A	A	アンケートにおける肯定的評価の割合は、以下の通りであった。 ・「『知りたい』『今何をすべきか』と考えて、課題を発見することができた。」3.3 ・「課題を解決するために、友達と協力したり、使えることを選択したりして、見通しをもって解決した。」3.0 ・「自分や友達、郷土の良さに気付くことができた。」3.0 ・「学んだ事を次の学習へ活かすことができた。」3.0 以上のことから、評価の全校平均を3以上にするという目標は達成することができた。1学期に比べて数値が下がっているのは、活動を進めていく中で様々な課題に気付き、自分事として捉えられるようになってきたことの表れと考えられる。	坂本上野宮本				
豊かな心と健やかな体	○豊かな関わり合いができ、たくましく生きる子供の育成	3 主体的な行動を通して自己肯定感を育てる。	○委員会活動や係・当番活動等の日々の学校生活を通して、自分・学級・学校・地域をよりよくするために、自ら取り組める環境を作り、主体的な行動を促す。 ○挨拶や優しい言葉遣い、協力する体験等を通じて、児童相互に尊重し合える関係づくりをする。	○以下の質問に対して肯定的に答える児童の割合が80%以上にする。 ・敬語を使って話す等、その場に応じた話し方ができる。 ・レベル5（自分から 相手に聞こえる声で 相手の目を見て 立ち止まって）の挨拶をすることができている。 ・自分の決めた目標に向かって努力できた。 ・周りの人のために自分で考えて行動することができた。 ・友達が頑張っていたり困っていたりした時に、協力することができた。	B	A	A	2月末での肯定的評価の割合は、以下の通りであった。 ・「敬語を使って話す等、その場に応じた話し方ができる。」約97% ・「レベル5（自分から 相手に聞こえる声で 相手の目を見て立ち止まって）の挨拶をすることができている。」約84% ・「自分の決めた目標に向かって努力できた。」約92% ・「周りの人のために自分で考えて行動することができた。」約87% ・「友達が頑張っていたり困っていたりした時に、協力することができた。」約94%以上のことから、全項目を80%以上にするという目標は達成することができた。今後も、学習や生活の場において、児童が自分で考え、判断したり、友達と協力できたりするような活動を仕組んでいきたい。また、今回80%以上に数値が向上した「挨拶」についても、引き続き児童会を中心とした「挨拶名人」の取り組みも継続したり、教職員自らが「レベル5の挨拶」を率先垂範したりすることを通して、「自分から、相手に聞こえる声で、立ち止まって、相手の目を見て」挨拶ができる児童をさらに増やしていきたい。	高石辻				
		4 基本的生活習慣を身につけさせる	○日常的な生活習慣定着の徹底をはかる。 ○保健便りや学級通信等での周知や、養護教諭等と連携して全体または学級指導を行う。	○生活がんばりカードの合計点数25点中20点以上の割合を80%以上にする。 ○学期に1回以上、便りや通信による周知及び全体や学級での指導を行う。	B	A	A	・生活頑張りカードの合計点数20点以上の児童の割合は、89%と前回の結果よりも8%向上した。また、便りや通信での周知、学級指導も適宜行った。 ・「自分で起きる」の項目は88%、「テレビゲームの時間が守れた」の項目は87%であった。これらの項目の点数に課題があるため児童自身に具体的な目標を設定させ、学級通信等でその内容について周知し、家庭と連携して指導を行う。	剣持奥谷川原				
信頼される学校	○保護者・地域に信頼される学校づくり	5 児童の様子や取組を積極的に発信する。	○学校便りや学校のホームページを通して、学校での取組みや児童の様子を積極的に発信する。 ○学級通信を通して児童の様子を保護者に知らせ、保護者との連携を深める。	○月に1度の割合で学校だよりを発行する。また、「ホームページ運営計画」に基づいてホームページの更新をする。 ○週に1度を目安に学級通信を発行する。	A	A	A	・月に1度の学校だよりの発行やそれらを中心としたホームページ更新を行うことができた。学級通信の発行は平均週1.37回だった。 ・2学期の保護者アンケート「学校は、学校だより・学級だよりなどで、学校の教育方針や子どもの様子を分かりやすく伝えている」において97%の肯定的評価を受け、1学期よりも3%増加した。児童の学習や生活の様子・成長等を各種たよりを通して詳しく伝えることで、学校への理解を得ることもつながっていると感じる。	相原 剣持古本				
		6 コミュニティスクールを推進する。	○学校運営協議会を実施し、地域と共に学校づくりを進める。	○学校運営協議会を9月までに2回、3月までに3回以上行う。 ○学校行事等への参加を年3回以上行い、学校教育の様子を発信する。	B	B	B	・4月26日、10月5日、3月1日に学校運営協議会を実施し、授業参観、学校経営についての説明を行った。全学級の授業を見ていただくことで児童の様子や学校の取組等について理解してもらうことができた。 ・運動会は実際に来校していただき、学習発表会（ミニ発表会）は発表の録画を通して、児童の様子や学習の成果を見ていただくことができた。	相原高石坂本				
※ 評価基準		A	よく当てはまる（達成率100%以上）		B	やや当てはまる（達成率80～100%）		C	あまり当てはまらない（達成率60～80%）		D	全く当てはまらない（達成率60%未満）	

